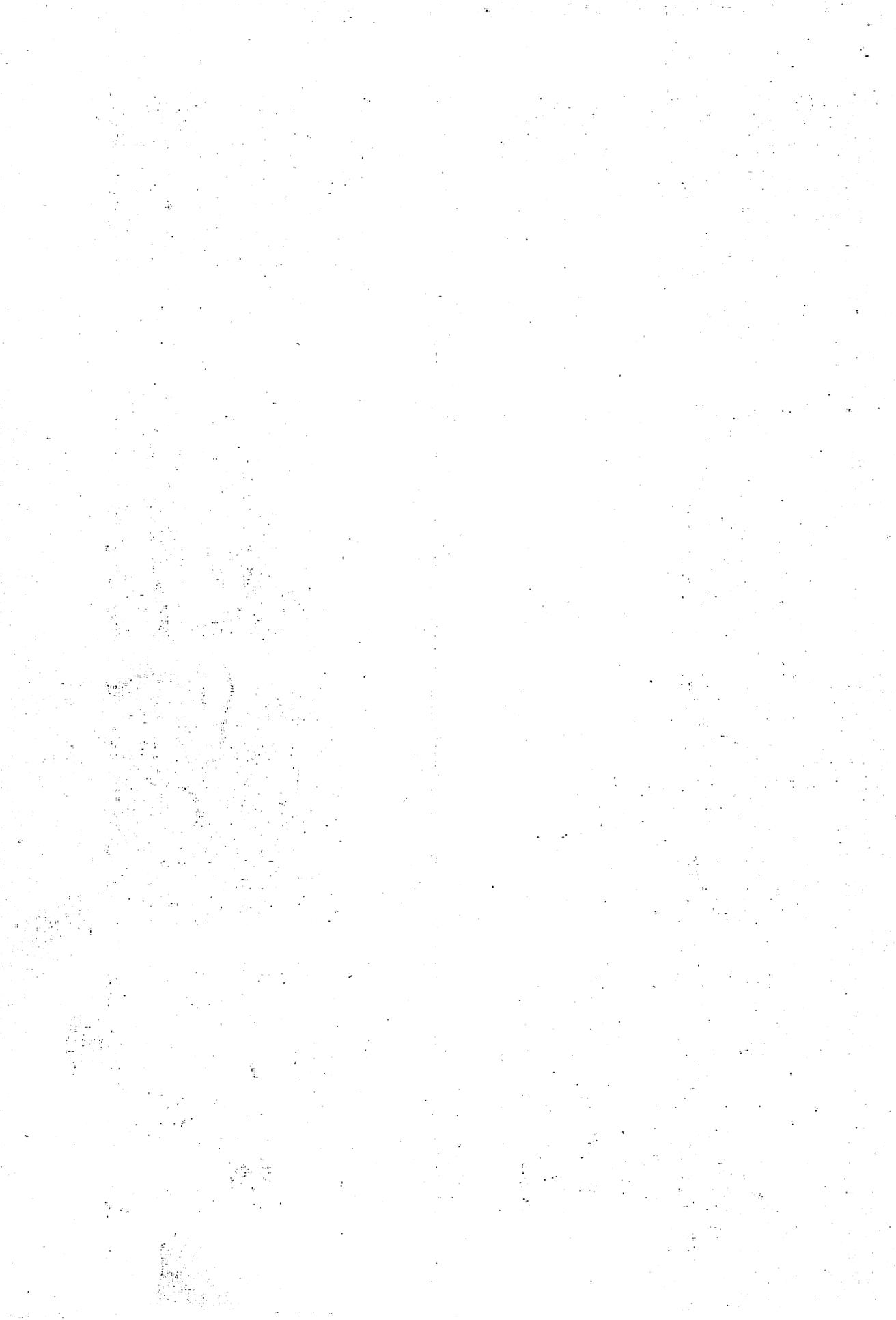

鹿児島県の路傍300種図鑑

離島編

植 物





1 アマクサシダ (10)



2 イシカグマ (10)



3 オニヤブソテツ (11)



4 カニクサ (11)



5 コシダ (11)



6 タマシダ (12)



7 ハチジョウカグマ (12)



8 ハマホラシノブ (12)



9 ヒ ト ツ バ (13)



10 ホ ウ ラ イ シ ダ (13)



11 ホ シ ダ (13)



12 ミ ズ ス ギ (14)



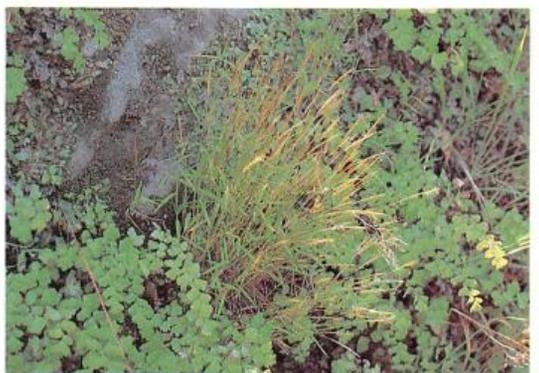
13 リュウキュウイノモトソウ (14)



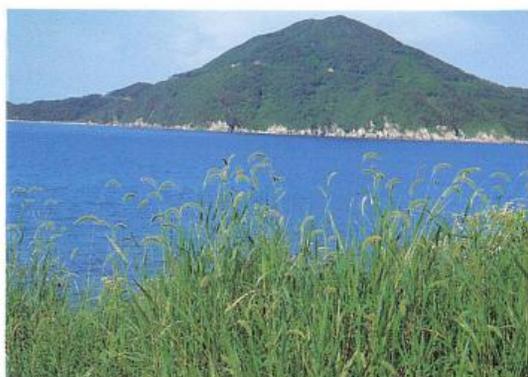
15 ワ ラ ビ (15)



16 ア ダ ン (15)



17 イ タ チ ガ ヤ (15)



18 エノコログサ (16)



19 カモジグサ (16)



20 クワズイモ (16)



21 コゴメガヤツリ (17)



22 スズメノテッポウ (18)



23 スズメノヒエ (18)



24 チカラシバ (18)



25 チガヤ (19)



26 テ ッ ポ ウ ユ リ (19)



27 ナ ン ゴ ク ネ ジ バ ナ (19)



28 ハ イ キ ビ (20)



29 ハ チ ジ ョ ウ ス ス キ (20)



30 ハ マ ス ゲ (20)



31 ハ マ ヒ エ ガ エ リ (21)



32 ヒ メ コ バ ン ソ ウ (21)



33 ヒ メ ヒ オ オ ギ ズ イ セ ン (21)



34 マルバツユクサ (22)



35 メヒシバ (22)



36 アオビユ (23)



37 アキノキリンソウ (23)



38 アキノノゲシ (23)



39 アレチマツヨイグサ (24)



40 イタドリ (24)



41 イヌガラシ (25)



42 イヌタデ (25)



43 ウリクサ (26)



44 エノキグサ (26)



45 オオアレチノギク (27)



46 オオシマノジギク (26)



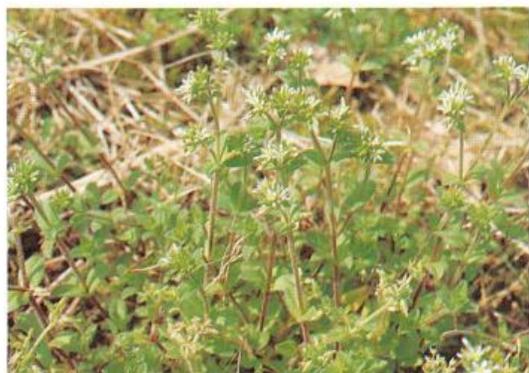
47 オオバコ (27)



48 オトギリソウ (28)



49 オニタビラコ (28)



50 オランダミミナグサ (28)



51 カタバミ (31)



52 カラムシ (29)



53 キダチハマグルマ (29)



54 ギシギシ (30)



55 クワクサ (30)



56 コミカンソウ (30)



57 サイヨウシャジン (32)



58 シロツメクサ (31)



59 シロバナセンダングサ (32)



60 シマアザミ (32)



61 シマキツネノボタン (33)



62 シマニシキソウ (33)



63 ジシバリ (33)



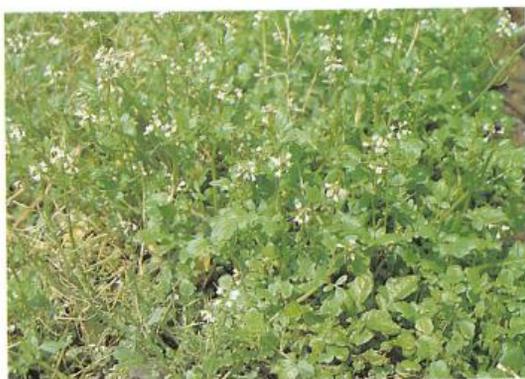
64 スズメノエンドウ (34)



65 スベリヒユ (34)



66 タカサブロウ (34)



67 タネツケバナ (35)



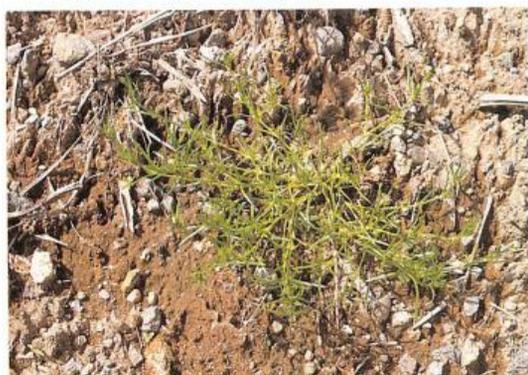
68 チチコグサ (35)



69 チチコグサモドキ (35)



70 ツボクサ (36)



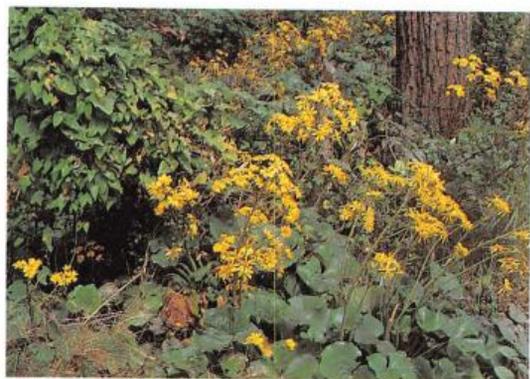
71 ツメクサ (36)



72 ツルソバ (24)



73 ツルマオ (36)



74 ツワブキ (37)



75 トウバナ (37)



76 ナズナ (37)



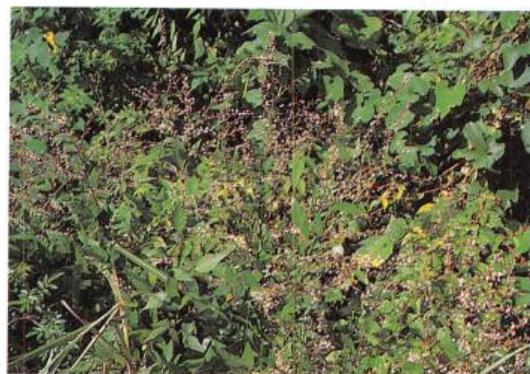
77 ナワシロイチゴ (38)



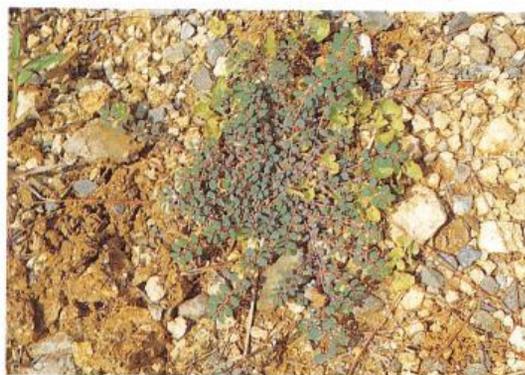
78 ナンバンギセル (38)



79 ニオウヤブマオ (38)



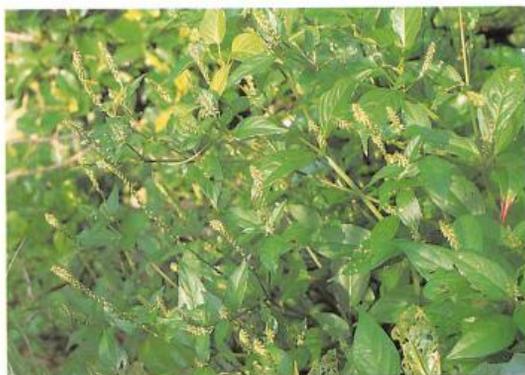
80 ヌスビトハギ (39)



81 ハイニシキソウ (39)



82 ハ コ ベ (39)



83 ハチジョウイノコズチ (40)



84 ハ ハ コ グ サ (35)



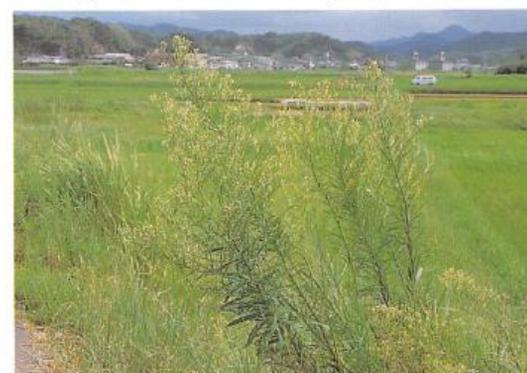
85 ハ マ ウ ド (40)



86 ハ ル ノ ノ ゲ シ (40)



87 ハ ン ゲ シ ヨ ウ (41)



88 ヒ メ ム カ シ ヨ モ ギ (27)



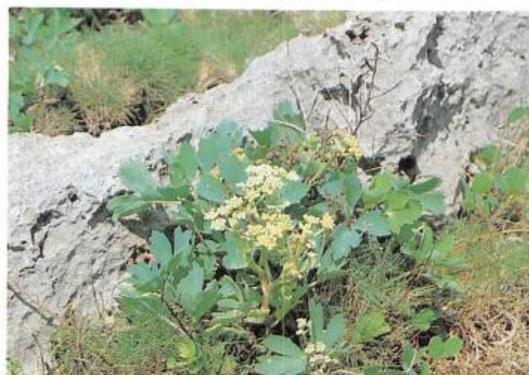
89 ヘ ビ イ チ ゴ (41)



90 ベニバナボロギク (41)



91 ホソバワダン (42)



92 ボタンボウフウ (42)



93 ムラサキカタバミ (31)



94 メドハギ (42)



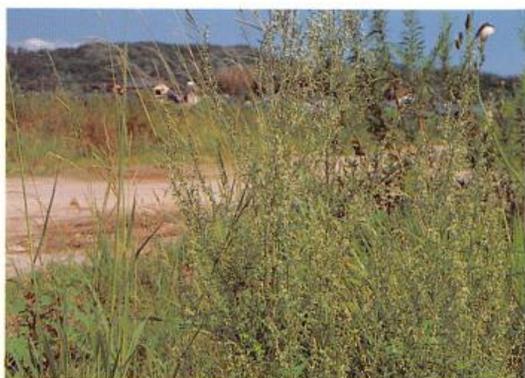
95 ヤハズソウ (43)



96 ヤマヒヨドリ (43)



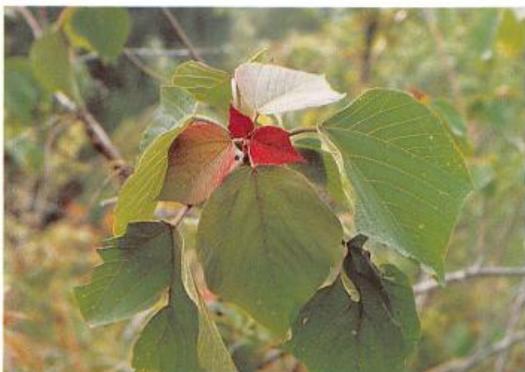
97 ヨメナ (43)



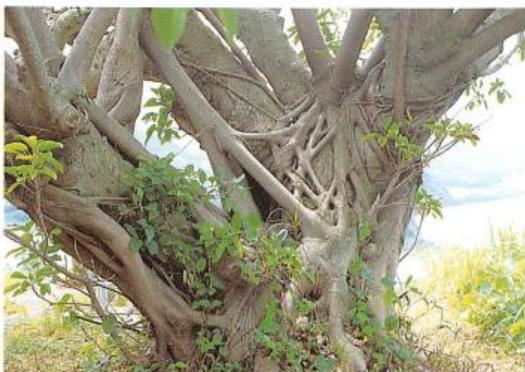
98 ヨモギ (44)



99 ルリハコベ (44)



100 アカメガシワ (45)



101 アコウ (45)



102 アマクサギ (45)



103 イタジイ (46)



104 イヌビワ (46)



105 ウラジロエノキ (46)



106 エゴノキ (47)



107 オオシマウツギ (47)



108 オオハマボウ (47)



109 オオムラサキシキブ (48)



110 ガジュマル (48)



111 クサトベラ (48)



112 コンロンカ (49)



113 ゴンズイ (49)



114 サンゴジュ (49)



115 シマイズセンリョウ (50)



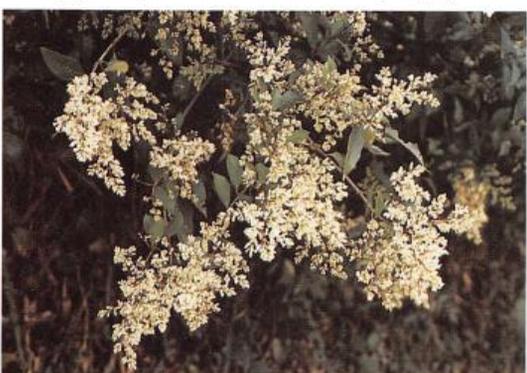
116 シャリンバイ (50)



117 トベラ (50)



118 ナンバンキブシ (51)



119 ネズミモチ (51)



120 ノボタン (51)



121 ハマゴウ (52)



122 ハマヒサカキ (52)



124 ホルトノキ (53)



125 モクタチバナ (53)



126 ヤマモモ (53)



127 リュウキュウバライチゴ (54)



128 エビズル (54)



129 オオイタビ (54)



130 カナムグラ (55)



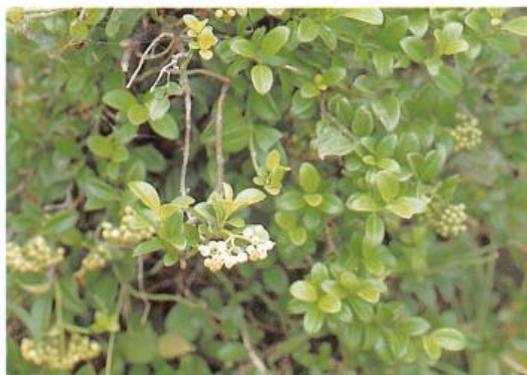
131 グンバイヒルガオ (55)



132 ケカラスウリ (55)



133 サツマサンキライ (56)



134 シラタマカズラ (56)



135 センニンソウ (57)



136 ツルグミ (57)



137 テリハノイバラ (58)



138 ノアサガオ (58)



139 ハスノハカズラ (58)



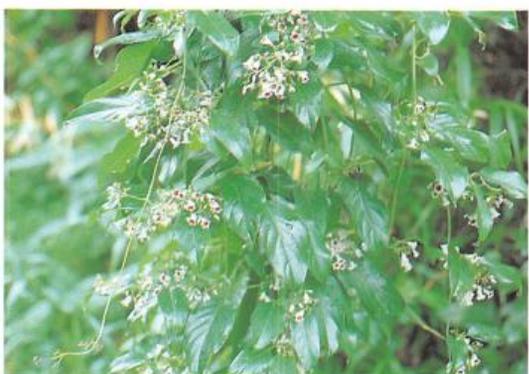
140 ハマヒルガオ (59)



141 ビナンカズラ (59)



142 フウトウカズラ (59)



143 ヘクソカズラ (60)



144 ホウロクイチゴ (60)



145 リュウキュウテイカズラ (60)



ツキイゲ (8)

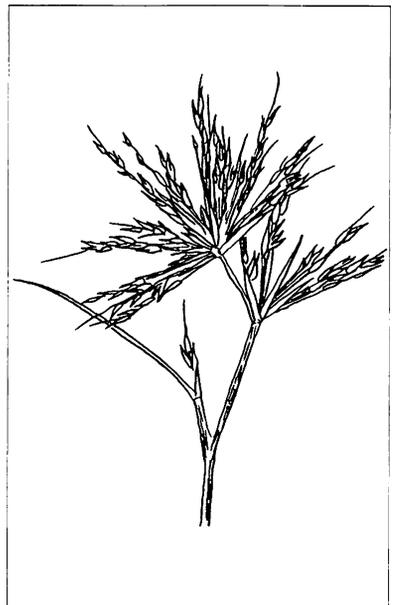
植 物

路傍300種のうち植物は145種含まれています。関連解説（147種）を含めると292種になっています。

1. **時期**は、主として花や実の見られる期間を示してあります。地方によって多少のずれが、生じてくると思いますが、一応、採集適期と考えて下さい。もちろん、花や実の時期以外の観察も大切です。
2. **場所**は、その植物がよく見られる場所という意味です。なるべく具体的に書くように努めました。日なたと日かげなどのような環境条件、あるいはよくいっしょに出てくる植物は何か、などにも注意して下さい。
3. **解説**では、その植物名の由来とか方言（方言）を記し、あるいは用途など、その種によって異なりますが気楽に読める内容にしてあります。一定の規準は設けてありません。
4. **似た植物**は、必ずしも近縁種を意味しません。一見似た感じの植物という意味です。
5. 見分け方や特徴については○で囲んで示しました。その際、顕微鏡やルーペを使っの細部にわたる判別法はなるべく避けました。また、花のつくりやおしべ、めしべ等についての記述は図鑑を参照して下さい。外見的特徴で見分けられるよう工夫したつもりです。
6. 難解な分類用語はなるべく使わないよう努力しましたが、例えば小学生が、この冊子をもとに植物を見分けるには無理な点があるかも知れませんが、大人にとっては経験上、とりあげた植物、は見たことのあるものが大半です。是非子供達に教えてください。
7. 図に着色して用いられるのも一つの方法かと思います。楽しい使い方を工夫してみてください。
8. 波線の囲み記事は軽いコラム欄のつもりです。関連記事や「科」の特徴、一口メモ的な内容を取り上げました。
9. 図の不明な所は市販の図鑑等で補って下さい。一部誇張したり省略して描いたところもあります。

右の図は、イネ科のツキイゲという植物です。種子島、屋久島、宝島、奄美諸島の海岸の砂地に生え、雄株と雌株に分かれています。茎は根元で枝分かれしてとても固く、多くの葉をつけ、葉の先は固く鋭い針状になっています。夏、茎の先に針状の枝が何百本も放射状に出て、穂をつけます。針状の固い枝や葉をもつため、害草として嫌われ、また、動物もヤギ以外はほとんど食べないそうです。形が変わっているので簡単に見つかるでしょう。

この本をきっかけとして、植物の世界をじっくりのぞいてみてください。



植 物

1. これが植物145種の顔ぶれです。

シダ



15種

単子葉 (草)



20種

双子葉 (草)



64種

双子葉 (木)



28種

つる植物



18種

2. こうして始めましょう。

(1)まず下調べ



(2)野外へ探しに出たら



(3)再確認



(4)押し葉や鉢植えに



- 植物全体の形や色は？
- 「いつごろ」「どこに」？
- 見分けるポイントは？

- 目的の植物か？葉や花のつき方、形、色などチェック
- 疑わしいのも持ち帰る
- 周囲のようすや他の植物にも注意

- 1人でじっくり観る
- みんなで分担をきめて検討する
- これだっ!!という感激

- 手帳ノートで簡単な押し葉を
- 鉢植えにして観察も

○何回も足を運び「顔なじみ」をつくるのが植物を覚えるコツです。

○写真で記録するのも楽しいもの、思い切りアップで撮ると意外な発見があります。

3. こんな標本のつくり方もあります。

- 似た植物の花だけとか、葉だけを手帳にはっておくと比べながら覚えられます。
- 気に入った植物の花のアルバムや葉のアルバムを作ってみましょう。写真をそえるとさらに楽しいもの。ヨモギの一生を押し葉にするのも面白いでしょう。
- ひかげにつるして作るドライフラワーも楽しめます。



4. 本格的な標本も作ってみよう—おもしろをきかして、早く乾燥させるのがコツです—

- (1)新聞紙にはさみおもしろをする。
- (2)1日1回新聞紙をとりかえる。
- (3)ガムテープを小さく切って台紙にはりつける。
- (4)採集地・採集年月日等を書いたラベルをつけるとりっぱな標本のでき上がり。
- (5)洋服箱にナフタリンを入れて保存します。

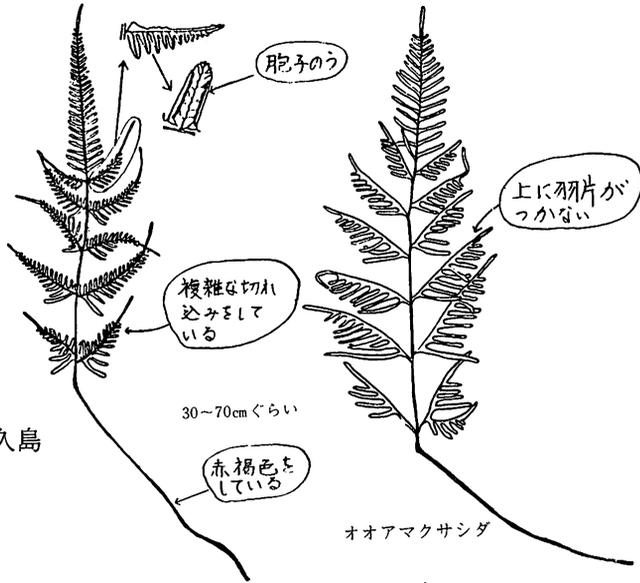
1 アマクサシダ (わらび科)

時期 常緑のシダで年間を通して見られる。

場所 平地から低山地まで生え、やや乾燥した陽地にも陰地にも生えている。県内各地に分布する。

解説 全体の大きさは30~70cmぐらいになり、葉の切れ込みが独特で見分けやすい。和名は熊本県の天草にちなんでつけられた。

似た植物 オオアマクサシダは屋久島以南に分布し、1.2mにもなる。



2 イシカグマ (わらび科)

時期 常緑のシダで年間を通して見られる。

場所 海岸近くの山地や原野、ときには内陸部まで生えている。県内各地に分布する。

解説 高さが1~1.5mまで生長することもあり、根茎はやや長くは、茶かっ色の毛が生えている。

似た植物 ない。



シダの各部の呼びかた

葉のぎざぎざを鋸歯 (のこぎり) の歯の意味) という。

葉にぎざぎざのないものを全縁という。

シダでは胞子のつき方、鱗片などが区別の要点になることが多い。

3 オニヤブソテツ (おしだ科)

時期 常緑のシダで年間を通して見られる。

場所 海岸近くの岩場や人家の石垣によく生えており見つけやすい。日当たりのよい林縁部などにも生えている。県内各地に分布する。

解説 50~100cmぐらい。濃い緑色の葉で光沢があり、葉は厚く、みるからにじょうぶそうなシダである。

似た植物 ない。

“注” 耳垂も種を見わける特徴のひとつになる。



4 カニクサ (かにくさ科)

時期 常緑のシダで年間を通して見られる。

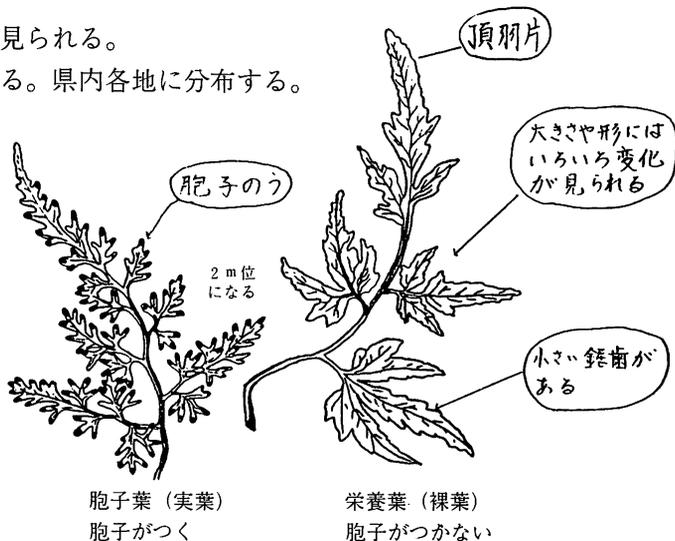
場所 山野や崖、石垣などに生える。県内各地に分布する。

解説 つる性のシダで2m以上にもなることがある。葉の形や大きさは変化が多い。

名の由来……子どもがこのつるでカニをつるところからカニクサ。

似た植物 ナガバカニクサ

奄美以南に分布。頂羽片はより長く鋸歯はあまりはっきりしないか全縁。



胞子葉 (実葉)
胞子がつく

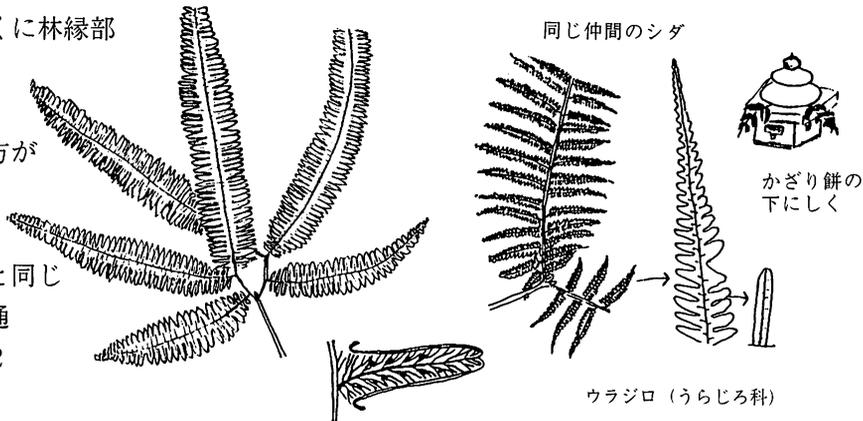
栄養葉 (裸葉)
胞子につかない

5 コシダ (うらじろ科)

時期 常緑のシダで、山地で大群落をなすことが多い。県内各地に分布する。

場所 林の下草とくに林縁部に多く、乾燥した明るい所で見られる。

解説 葉の分かれ方が独特で葉柄の先に左右2枚の羽片がつき、その間から前と同じ形の羽片がでる。普通6枚 (ウラジロは2枚)。



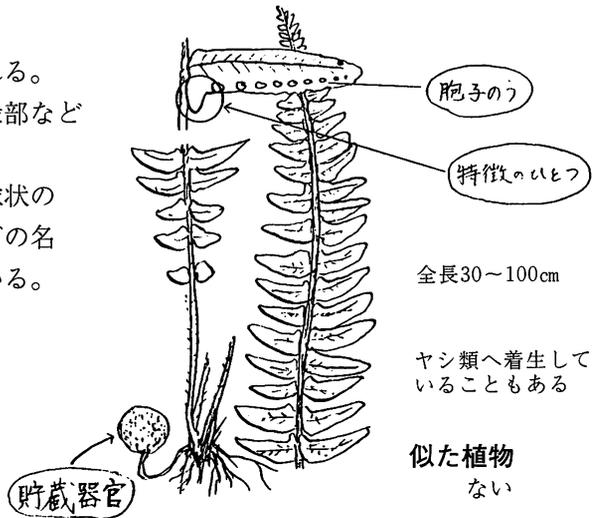
6 タマシダ (しのぶ科)

時期 常緑のシダ，年間を通して見られる。

場所 海岸近くの岩場や道路ばた，林縁部などに群生している。乾燥に強いシダ。

解説 根を掘ってみると，図のような球状のかたまりがついている。これからタマシダの名がついた。いけ花などによく利用されている。

シダの標本を取るときは，
胞子のうがついたものを，鱗片が
落ちないように気をつけて採集
することが大切である。



全長30~100cm

ヤシ類へ着生していることもある

似た植物
ない

7 ハチジョウカグマ (ししがしら科)

時期 常緑の大形シダ。

場所 崖に垂れ下がるように生えている。



似た植物

コモチシダ

8 ハマホラシノブ (わらび科)

時期 常緑のシダ，年間を通して見られる。

場所 海岸近くに生えている。主として県本土南部以南。

解説 葉の質が厚く，最下羽片が短くならない。

似た植物 ホラシノブ，タチシノブ

山地の崖や畑の土手に多く最下羽片は短くなる。



9 ヒトツバ (うらぼし科)

時期 常緑のシダで、年間を通して見られる。

場所 乾燥した岩の上や樹上に着生し、時には地上にも生える。県内各地に分布する。

解説 根茎は長くはい、長さ5~20cm位の葉をまばらにつける。葉の先はとがり、幅は中央部より基部の方が広い。葉柄の基部の鱗片は黒かっ色をしている。

鹿児島県ではイヌマキのことをヒトツバというのが、正しくは、和名のヒトツバは本種のこと。

似た植物 クリハラシ



10 ホウライシダ (わらび科)

時期 常緑のシダで年間を通して見られる。

場所 石垣などに生えている。県本土中部以南に分布する。

解説 羽片の先は浅~深裂の切れこみがあり、数個の裂片に分かれる。根茎は短くはい、葉が集まって生えている。

似た植物 ハコネシダ
(県北部に産する)



11 ホシダ (おしだ科)

時期 最も普通に見られる常緑のシダで、年間を通して見られる。

場所 人家周辺の石垣や道路ばたのやぶ、山地など、県内各地に分布する。

解説 高さ30~50cm位、最下羽片の基部の第一裂片は長く、鎌状に曲がって葉軸の上に重なる。

似た植物 ケホシダ……全体に毛が多い。
(県本土南部以南)



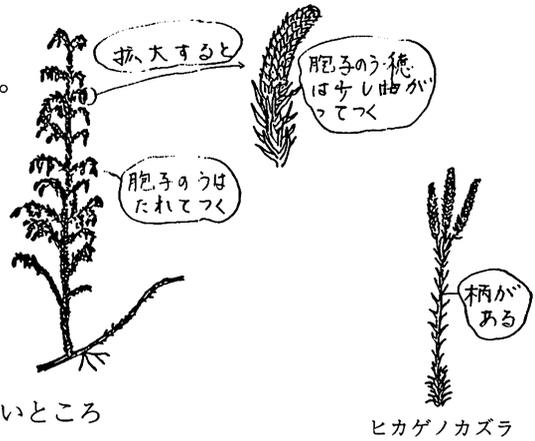
12 ミズスギ (ひかげのかずら科)

時期 常緑のシダで、年間を通して見られる。

場所 日当たりのよい湿地や切り通しの斜面に生える。各地に分布。

解説 主茎は立ち分岐する。別に長く伸びた枝は地について根を生じる。枝はみな円形、葉は針形で四方に等しく開いてつく。

似た植物 ヒカゲノカズラ……日当たりのよいところ
(県本土、屋久島、黒島、奄美本島に分布する)



ヒカゲノカズラ

13 リュウキュウイノモトソウ

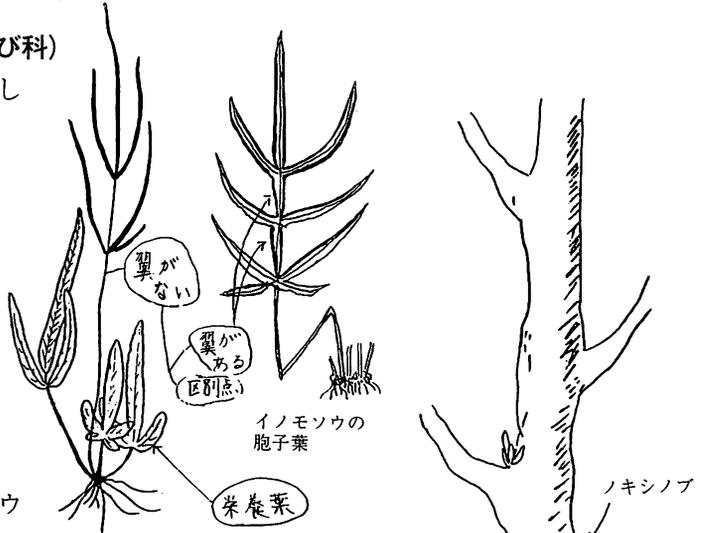
(わらび科)

時期 常緑のシダで、年間を通して見られるが、3～4月頃は若葉のため胞子葉はついていない。

場所 人家周辺の石垣や道路ばたの崖地など。

解説 井戸のそばによく生育している草の意味。胞子葉が一般に栄養葉より高くなる。

似た植物 イノモトソウ
オオバノイノモトソウ



リュウキュウイノモトソウ
(県本土南部以南に分布)

14 リュウキュウマメヅタ

(うらぼし科)

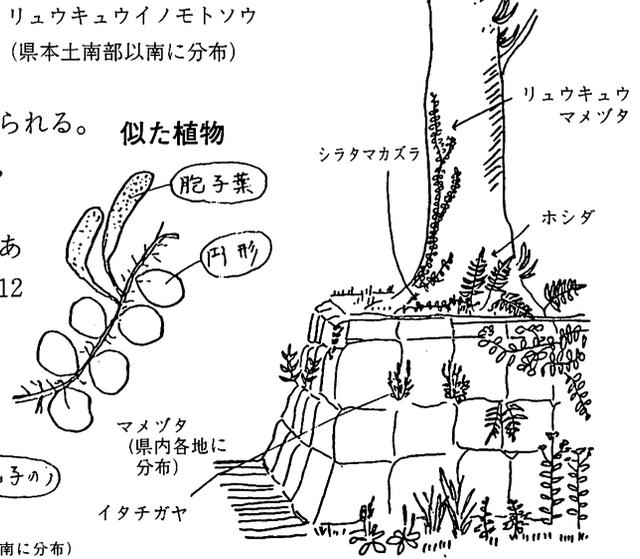
時期 常緑のシダで、年間を通して見られる。 **似た植物**

場所 低地から山地にかけての岩の上、樹上、石垣などに着生する小形のシダ。

解説 栄養葉は長さ2～7cm、短柄があり、葉はやや薄い、胞子葉は線形で3～12cm。



リュウキュウマメヅタ(奄美大島以南に分布)



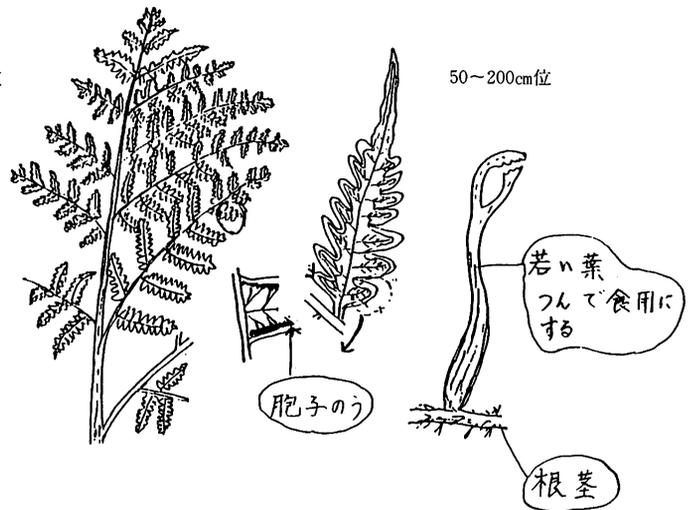
15 ワラビ (わらび科)

時期 多年生のシダで、地上部は冬には枯れる。

場所 山野に普通に見られる。日当たりのよい場所に多く生える。

解説 春、まだ葉が展開しない若い葉を採り、食用にする(わらび採り)。また、わらびの根からでん粉を取り、わらびのりを作る。

似た植物 ない。



16 アダン (たこのき科)

時期 常緑の単子葉植物で、年間を通して見られる。

場所 海岸に生え、防砂、防風用として用いられている。

解説 幹から多数の太い支柱根を出し、葉は硬い革質で、葉縁と中肋上に鋭いトゲがある。雌雄異株で、果実は熟すと黄赤色で芳香がある。

葉はさらして細工編物などに利用する。果実は食用にしない。奄美大島以南に分布する。甌島、中之島、口之島、平島、諏訪之瀬島、宝島、小宝島にも記録がある。

似た植物 ない。



17 イタチガヤ (いね科)

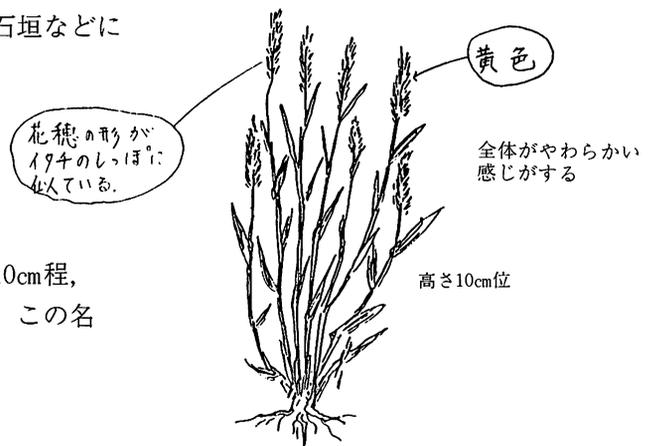
時期 6~10月頃に花穂を出す。

場所 湿った崖や土手、人家周辺の石垣などに多い。平地にはあまり生えていない。

解説 茎(いね科の茎を稗^{かん}という)は細く硬い。一株ごと密にかたまって生え(そう生^{かん}するという)遠くからでもすぐわかる。

全体にやや茶色をおびた緑色。高さ10cm程、花穂の形をイタチのしっぽに見たてて、この名がついた。

似た植物 ない。



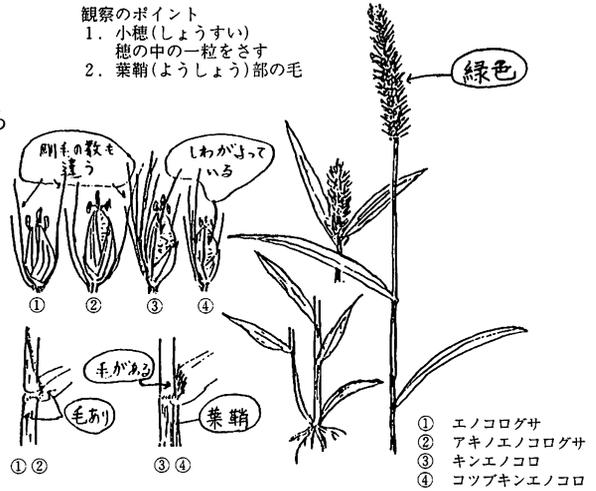
18 エノコログサ (いね科)

時期 夏から秋に花穂をつける。

場所 空地や道路ばた、畑地などに生える一年草。県内各地に分布する。

解説 花穂を小犬に見たてて「犬ころ草」の名で呼んだり「ネコジャラシ」「インガグサ (奄美大島竜郷)、の方名もある。

似た植物 この仲間は似た種類が多く区別は難しいが、ルーペで拡大しながら、細部を観察するのに適した材料になる。



19 カモジグサ (いね科)

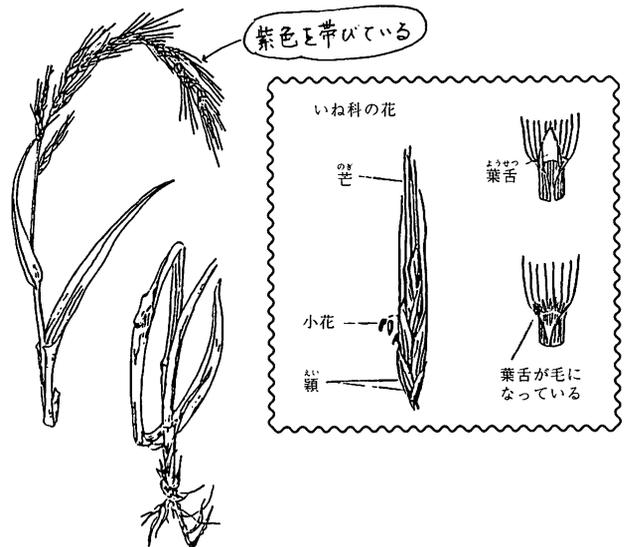
時期 5～6月に花穂をつける。

場所 低地路傍、田畑のあぜ道にごく普通に生えている。県内各地。

解説 茎は高さ50～100cm、葉はやや白味を帯び、花穂はゆるく弓なりに垂れ、のぎが紫色を帯びている。

似た植物 アオカモジグサ

- ①穎の表面にまばらな毛がある。
- ②小穂は淡緑色である。
- ③果時に芒がつよく外に曲がる。
- ④花穂の垂れ方が少ない。



20 クワズイモ (さといも科)

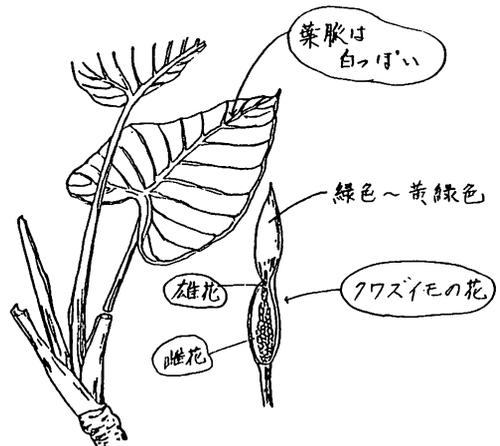
時期 常緑の多年草で暖地性の植物。

場所 樹林下の湿地に生える。高さ1m以上になることもある。県本土南部以南に分布する。

解説 茎は太く下部は地にはい、葉はサトイモの葉に似るが厚い。5～8月緑色の包葉の中に、円柱状の肉穂花序ができ、雄花は上部に、雌花は下部につく。

奄美大島では「アンパナ」の方名で呼ぶところもある。

似た植物 サトイモ…栽培種



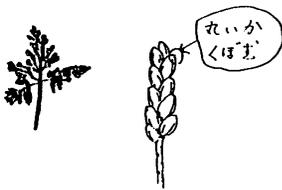
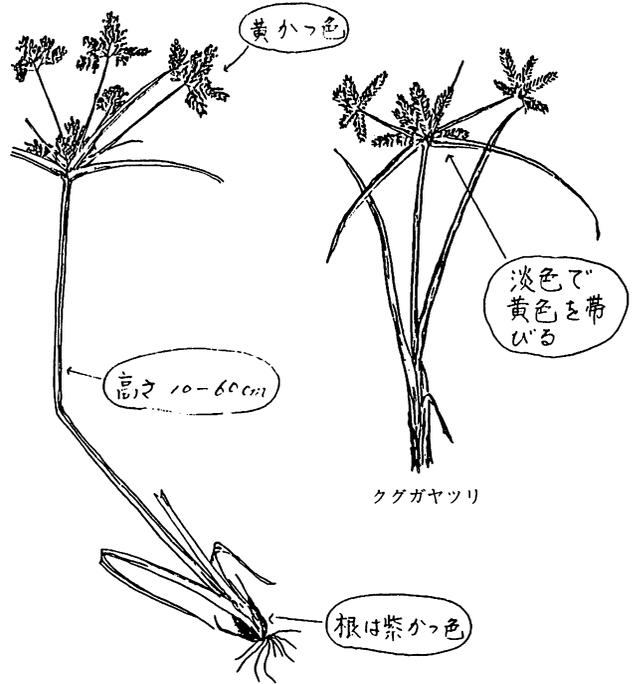
21 コゴメガヤツリ (かやつりぐさ科)

時期 夏～秋に花が咲く一年草。

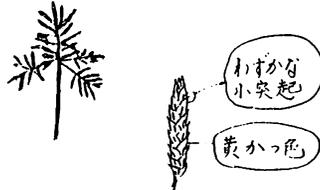
場所 田畑のあぜ、道路ばたなどの荒れ地に生える。県内各地に分布する。

解説 カヤツリグサ、チャガヤツリに比べて、花穂の分かれ方が複雑で、黄かっ色をしており多くは先が斜めに傾いている。りん片の先は丸いか、または浅くくぼんでいる。

似た植物 カヤツリグサ
チャガヤツリ
クグガヤツリ



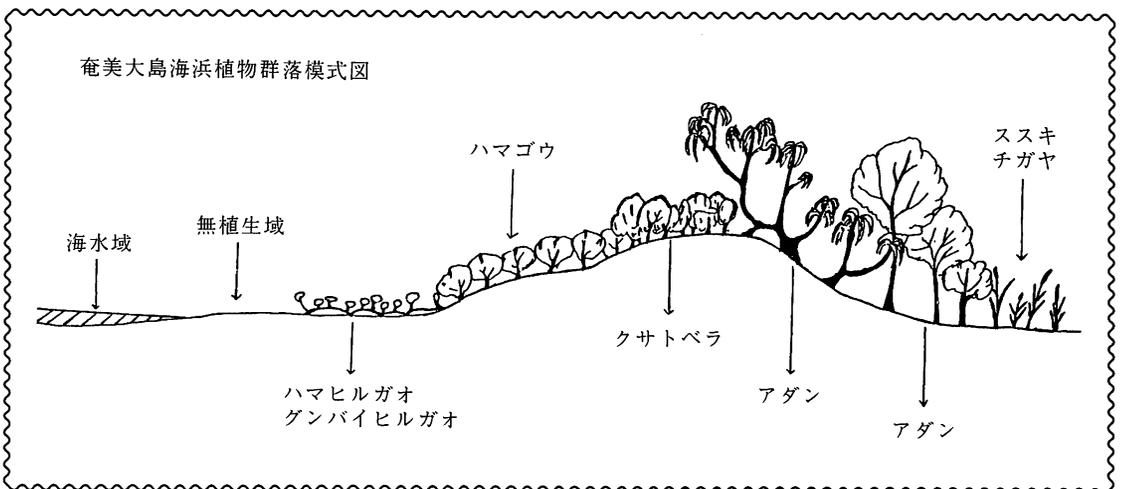
コゴメガヤツリの小穂



カヤツリグサの小穂



チャガヤツリリョウの小穂



22 スズメノテッポウ (いね科)

時期 春～夏に白緑色の花穂をつける一年草。

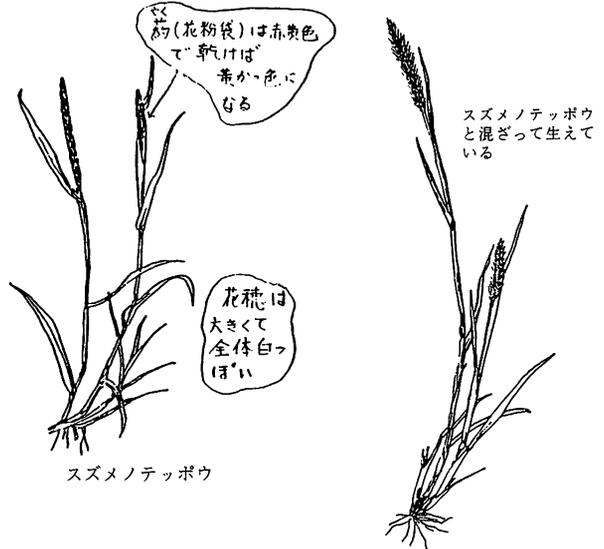
場所 田畑やあぜ道などやや湿地を好む。県内各地に分布する。

解説 茎は高さ20～40cm，葉は幅1.5～4mmで白緑色，花序は円柱形。

花穂を引きぬいて草笛にして鳴らして遊ぶ。

名の由来

花穂をスズメの使うテッポウに見たためたもの，スズメノマクラの方名もある。



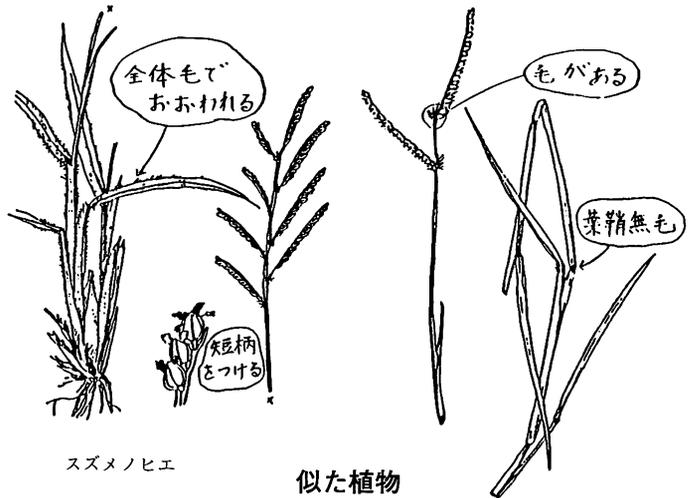
23 スズメノヒエ (いね科)

時期 秋に花穂をつける多年草。

場所 原野，田畑のあぜ，道路ばたにみられる。

解説 茎はかたまって出て，高さ40～90cm，葉は長さ10～30cm，幅5～8mm，全体白色の長毛に被われている。

スズメノヒエよりシマスズメノヒエが，近年，増えている。



24 チカラシバ (いね科)

時期 秋に花穂をつける。

場所 道ばたや荒れ地，グラウンドなどに生える。県内各地に分布する。

いね科の植物は花穂が出ないと名前がわからないものが多い。穂の出る時期に見ると特徴がはっきりしており覚えやすいもののひとつ。昔はチカラシバの穂を背中に入れたり，草原をはだしでかけまわりながら，これらの植物を結んで足をひっかけるワナを作ったりして遊んだ。

